

会 期：2024年11月18日(月)～21日(木)  
会 場：WITH HARAJUKU HALL  
主 催：日本放送協会  
対象：国内外を問わず、教育および教育コンテンツに関心のあるすべての人々  
公式サイト URL：<https://www.nhk.or.jp/jp-prize/>

総来場者数(参加数)：908人(リアル参加のみ)  
内 訳：(国内入場者数(参加数)：839人 海外入場者数(参加数)：69人)

#### ■開催内容

NHKが主催する、教育をテーマにしたテレビ番組や映像作品などの国際コンクール「日本賞」。第51回目を迎えた今回は、11月18日(月)～21日(木)に「日本賞映像祭」を東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLで開催し、イベントのオンデマンド配信も行った。今回は、前回に引き続き、最優秀賞・優秀賞などのコンクールの結果の一部を事前に発表。海外から受賞者を招聘したこともあり、35の国と地域から69名の参加があった。国内からも番組制作者をはじめ、教育コンテンツに関心を持つ人が多く参加し、会場でのリアル参加者が908名、オンラインでの参加が386名と盛況であった。

今年の「日本賞映像祭」の軸となったのは、昨年に引き続き「上映会&ディスカッション」。各部門最優秀賞および優秀賞作品を上映の後、参加者同士でのディスカッションが行われ、続けて受賞作品の制作者と審査委員が登壇。制作者は作品が生まれたきっかけや制作秘話を語り、審査委員は作品の評価ポイントなどについてコメントした。作品上映からディスカッション、制作者によるトークという流れが功を奏し、意見交換が活発に行われ、参加者の満足度も約9割と高かった。

また、予算・機材など制作条件が十分でない国・地域での教育番組の企画の実現を支援する「企画部門」では、会期中の19日に、ケニアや南スーダンなどから一次審査を通過した6名が、自分たちの企画に関するプレゼンテーションを行った。

最終日の21日には授賞式が行われ、秋篠宮皇嗣妃殿下にご臨席賜り、各部門最優秀賞4作品の中から選ばれた「グランプリ日本賞」と企画部門の最優秀賞と優秀賞が発表された。「グランプリ日本賞」には、イランの宗教都市コムを舞台に、少年時代に性的虐待を受けた男性が、大人になってから妻の支えを受けつつ、トラウマに向き合う姿を描いたドキュメンタリー「ハグしてもいい?」が選ばれた。

#### ■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

青少年部門の優秀賞には、自閉症の子どもの世界をテーマにした、カナダの作品が選ばれた。上映会は、実際にVR作品を壇上でデモンストレーションする形で行った。また、参加者が実際にVRゴーグルを着用して作品を体験できるコーナーを会場に設け、約50人が自閉症の世界をイマーシブ体験。作品への理解が深まったと好評であった。

